

鹿 児 島 県 公 報

令和元年 7 月 16 日（火）第 21 号の 3



発 行 鹿 児 島 県
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号
編 集 総 務 部 学 事 法 制 課
定 例 発 行 日（毎 週 火， 金）

目 次

（※については例規集掲載事項）

ページ

公 告

○鹿児島県名誉県民の事績 (秘書課取扱い) 1

公 告

鹿児島県名誉県民の事績

鹿児島県名誉県民条例（平成31年鹿児島県条例第2号）第2条の規定により、令和元年6月28日に鹿児島県名誉県民に選定した者の事績は、次のとおりである。

令和元年 7 月 16 日

鹿児島県知事 三反園訓

1 鹿児島県名誉県民

稲盛 和夫

2 現住所

京都府京都市

3 事績

昭和7年1月、鹿児島県鹿児島市に生まれる。

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業後、京都府の碍子メーカー松風工業に入社し、ニューセラミックの研究開発に従事した。

昭和34年に京都セラミック株式会社（現京セラ株式会社）を設立し、代表取締役社長、会長を経て、平成17年に同社名誉会長に就任した。

この間、氏は、ファインセラミックの部品事業にとどまらず、電子機器などの様々な分野へ事業を展開し、同社を世界有数の優良企業に成長させた。

昭和59年には、電気通信事業の民営化に伴い、第二電電株式会社（現KDDI株式会社）を設立し、同社会長に就任すると、国民の長距離通信コストの負担軽減を図り、さらには、携帯電話、PHS等の移動体通信事業などの電気通信事業の発展に多大な貢献をした。また、同年、財団法人稲盛財団（現公益財団法人稲盛財団）を設立すると、人類社会の進歩発展に著しく貢献した人々に贈られる京都賞を創設し、人類の科学の発展、文明の発展及び精神的深化に大きく貢献した。

このほか、若手経営者の育成のため、国内外で盛和塾を開塾し、自ら塾長を務めた。

平成22年には、政府の強い要請により、株式会社日本航空（現日本航空株式会社）会長に就任すると、同社全社員の意識改革に尽力し、短期間で再上場を果たした。

さらに、氏は、関西鹿児島県人会総連合会を設立し、会長を務めるほか、鹿児島の多くの若者を招待して、京都賞受賞者鹿児島講演会を開催し、さらには、国際交流の発展のため、鹿児島県国際交流センターの建設資金として、多額の私財を寄附するなど、多方面から献身的に故郷かごしまのために尽力している。

また、氏は、これまで、公益のため私財を寄附した者に授与される紺綬褒章を6回受章したほか、長年にわたる郷土愛に満ちた様々な社会活動により、平成27年11月に鹿児島県民栄誉表彰を受賞した。

さらには、ワールド・アントレプレナーシップ・フォーラムにおいて世界起業家賞や2011

オスマー・ゴールド・メダルなどの国際的な賞も数多く受賞した。

これらの功績は極めて顕著であり，県民が誇りとしてひとしく敬愛するものである。